

「繋がり」から新しい
政策仕組みづくりへ
飯舘村「までの力」モデルから

2011年1月21日

East-West Center/ 上智大学

GPI

清水美香

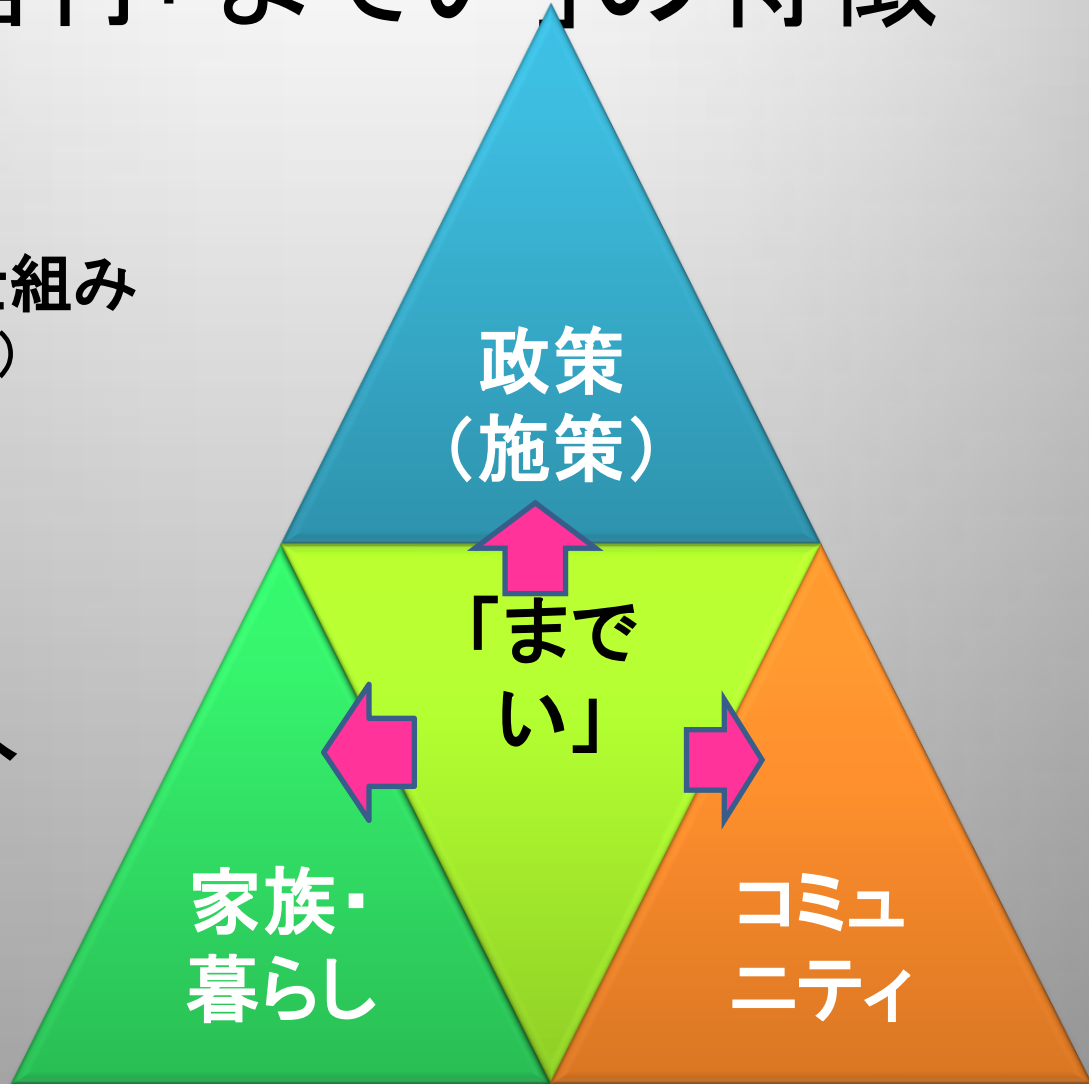
飯舘村「までい」の特徴

「までい」

「繋がり」重視の仕組み

- ・人(世代・女性・子供)
- ・時間(短・中・長)
- ・プロセス
- ・行政と市民

↓
持続可能な社会へ



震災前の飯舘村の施策に見る 「までい」の仕組み例

「地域別計画」

- 20の行政区に分けて、行政ごとに10年計画
- 村民が実施計画策定 → 市民の政策形成の参画
- 村民の代表がチェックする仕組み → 市民の政策評価への参画
- 村の職員が円滑に進むようサポート
- 文化継承、環境運動、コミュニティ形成に繋げる
→ 村民主体による政策実施

震災後の飯舘村の施策に見る 「までい」の仕組み例

●「いいたてむら 防犯まるごとプラン」

1) 警備、2) ホームセキュリティ・農具セキュリティ、3) 村民参画を通して「雇用」→「いいたて全村見守隊」

●「までいな希望プラン」

- 除染作業・健康記録
- 「ふるさとコミュニティ事業」
- 雇用、人材育成
- 「までいな復興会議」

→ 短期的視点のみならず、長期的視点を包含。異なる複雑な問題を統合して問題解決方向に向ける仕組み。コミュニティの繋がり、人の繋がりを重視。村民を施策計画から、実施に至るまで参画させる仕組み。

「までい」とレジリエンス (Resilience)

「までい」

レジリエンス

「繋がり」重視の仕組み

- 人・世代・女性・子供
- 時間
- プロセス
- 行政と市民



• 持続可能な社会へ

・「回復力」、「繋がる力」、「システム思考」
を包含。

・リンケージ・レベル

・時間、異なる組織、異なる専門運や、
自然・社会リスク
、プロセス・レベル

・一貫した政策形成、異なる政策分野
の統合、包括的災害間マネジメント、知
識創出

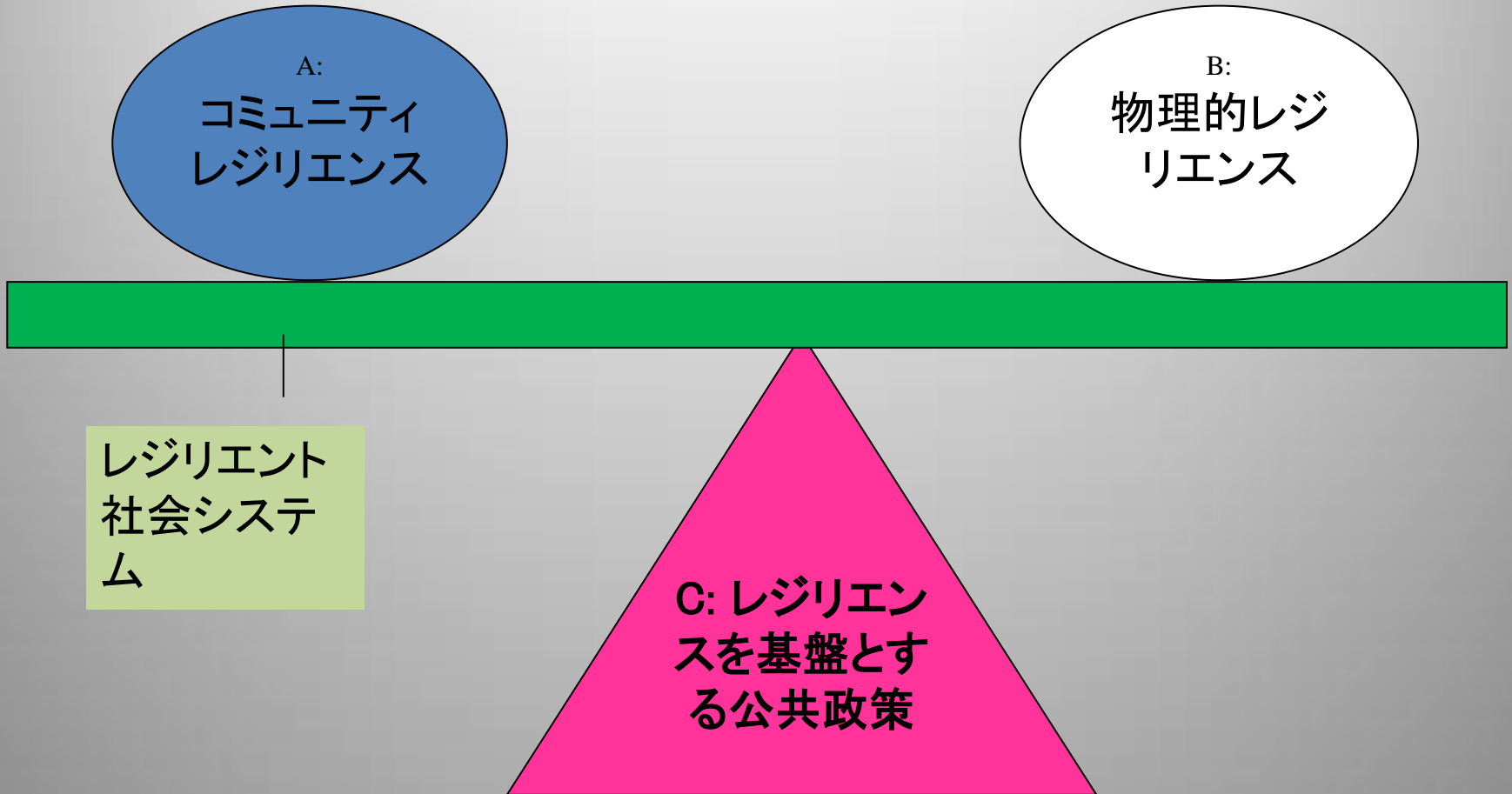


それぞれのレベルの仕組み、取り組みの
集積結果が、災害対応、持続可能な社
会を左右

なぜ災害・政策に「レジリエンス」？

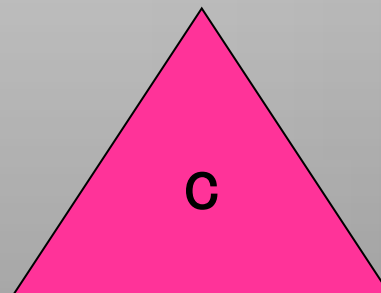
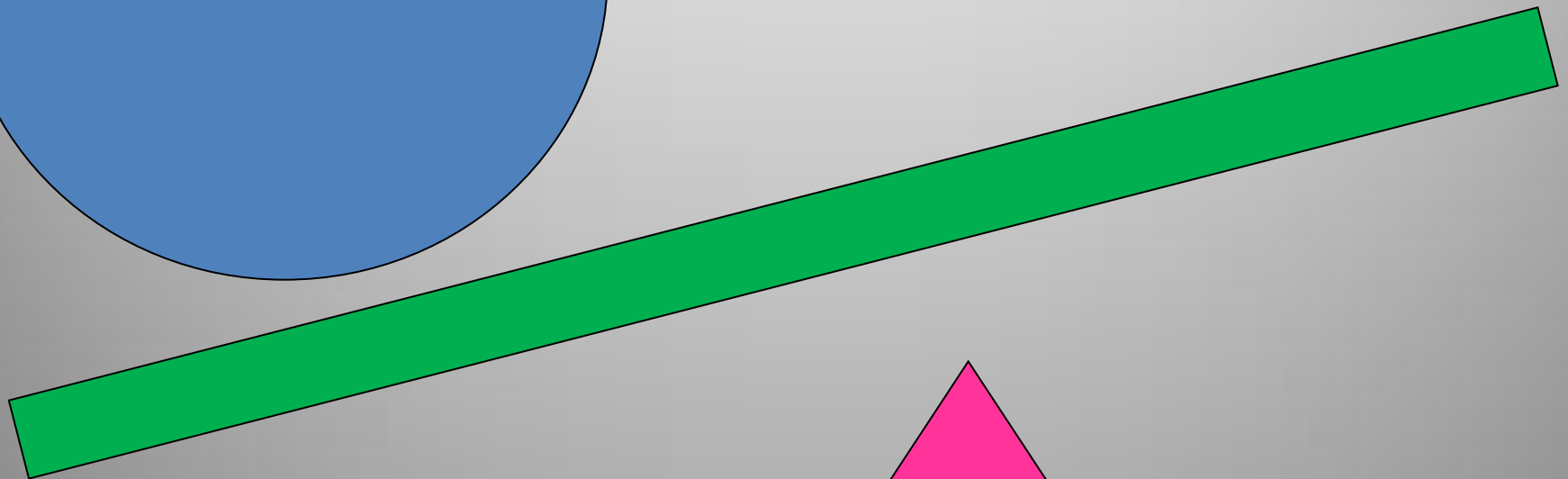
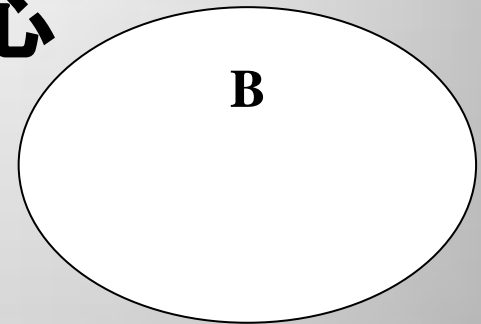
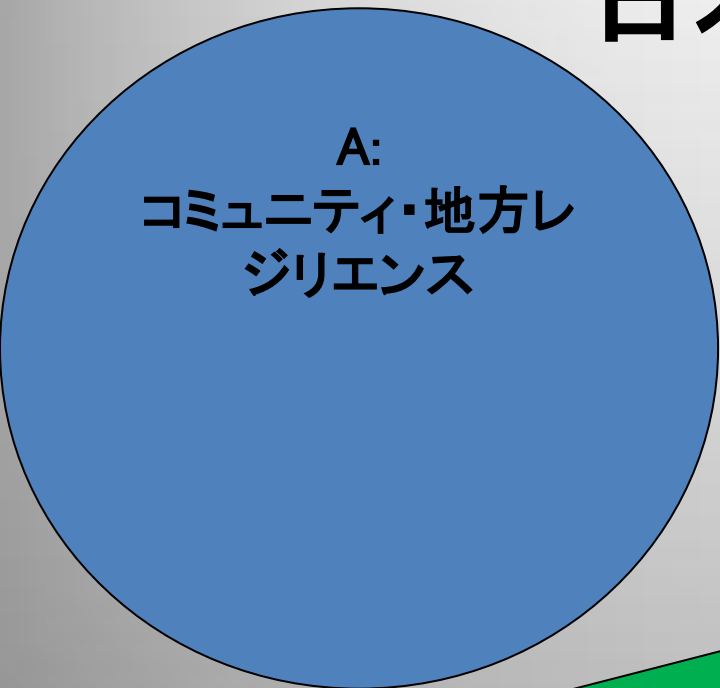
1. 大規模災害はコミュニティのレジリエンス能力を超える。
2. 不透明で複雑な自然・社会リスクを限定的な資源で管理することが不可欠である。
3. 複合災害に対応するためには政策形成過程を構造的に見直す必要がある。

「レジリエンス」の基本構造



(2011, 清水)

東日本震災に関わる 日本全体の対応



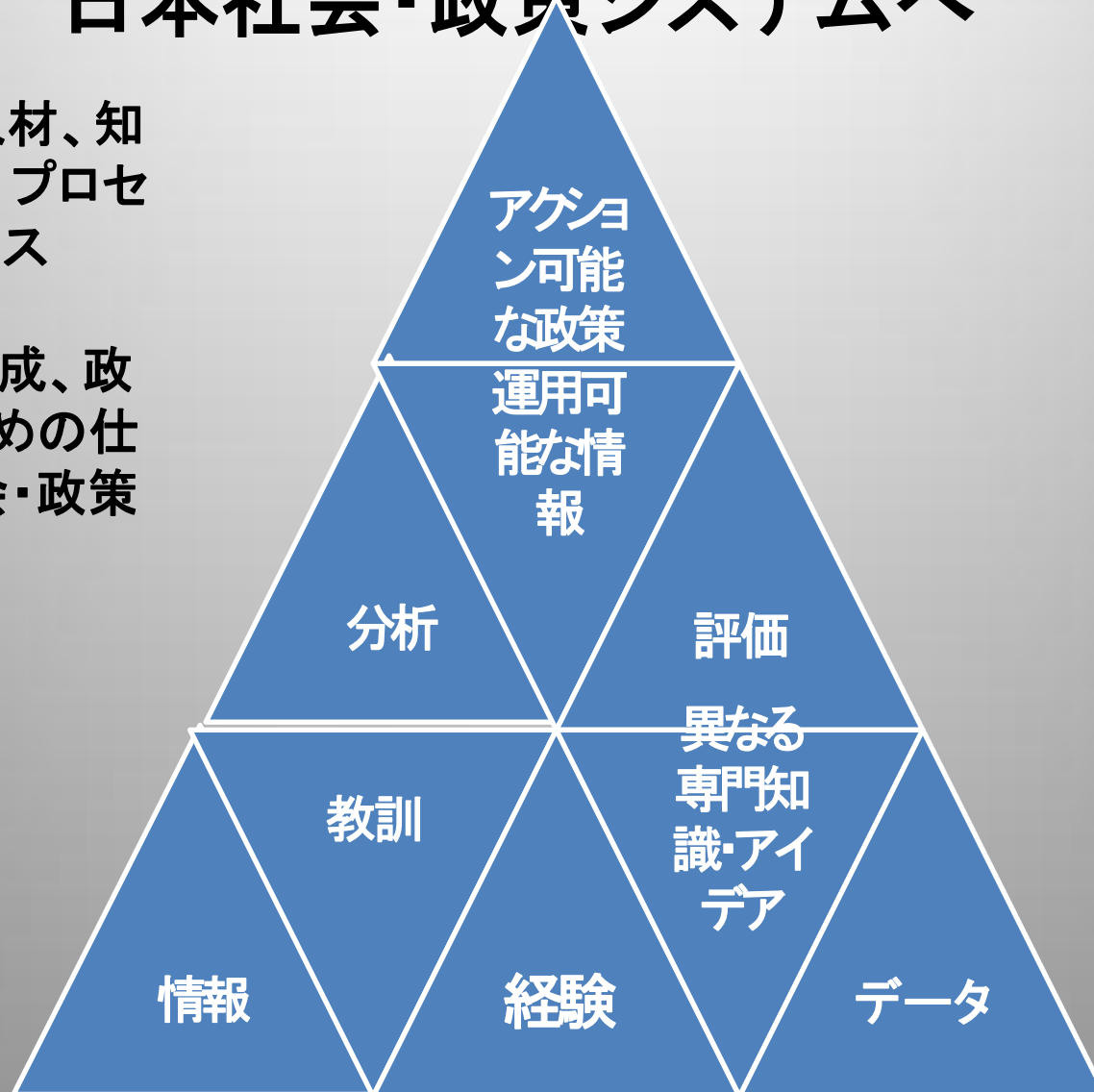
(2011, 清水)

「までい」が不足する東日本大震災対応例

- 中央調整機能の不在 → 異なる組織連携、事前・事後の繋がり
の軽視
例) 震災対応中に20以上もの新しい担当組織
- 政府省庁間の情報共有の錯綜 → 情報連携、一貫した政策形
成の軽視
例) SPEEDI
- 国から被災地(地方自治体)への情報伝達適切に行われず
→ 異なる組織の連携、情報連携の軽視 例) メディアを通して
状況を知る地方自治体
- 復興計画実施の遅れ
例) 復興予算、除染計画、雇用対策
→ 時間フレーム、異なる自然・社会リスクの繋がりを軽視
→ 偶発的な個人の怠慢、過失というよりむしろ、「までい」を重
視した政策システムの不足

「までき」モデルを 日本社会・政策システムへ

繋がり(時間、人材、知識、情報、経験、プロセス、社会・自然リスク...)を
重視した政策形成、政策決定、そのための仕組みづくり、社会・政策システムづくりを



(清水、2010年)

参考文献

- 菅野典雄 『美しい村に放射能が降った』 ワニブックス 2011年
- 『までいのか』 SEEDS出版 2011年
- 清水美香 「東日本大震災の教訓:「レジリエンス」と災害マネジメントおよび公共政策の連関性」『国際公共政策研究』 2012年(Forthcoming)
- Mika Shimizu “Resilience in Disaster Management and Public Policy: Through Case of Complex Disaster in Japan” *Risk, Hazards & Crisis in Public Policy*, 2012 (Forthcoming).